

1. 企業日本語研修コース・・・・・・・・・・・・・・・・北内直子・篠原典久・不動田早紀・中本澄代

企業様のニーズをお聞きして、プログラムをカスタマイズして実施しています。就業開始前、就業時間中、就業時間後など、ご希望の時間帯も様々です。定期的にテストやプレゼンテーションなどを行い、進捗報告を提出します。

A 社（業種：エネルギー・プラント）	
対象社員	新規入社社員 3 名：日本で他企業での就労経験あり、インドネシア・インド・マレーシア、3 名とも N2 合格か合格レベル
授業期間・頻度	1 期：約 3 か月 全 20 回 2 期：約 3 か月 全 20 回 各 90 分
授業形態	企業派遣
目標（企業様から求められていること）	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客の前できちんとプレゼンテーションができるようになること。 ・出張報告を正しい日本語で簡潔に書けるようになること。 ・（下のレベル）日本人社員と積極的にコミュニケーションが取れるようになること。
授業内容	<p>1 期：プレゼンテーション主体 日本語ブックス読解をトピックにして小論文→プレゼンテーション練習 助詞と動詞の結びつき・語彙力の強化</p> <p>2 期：小論文主体 簡単な二項対立からはじめ、仕事関連トピックで小論文を書く練習 日本語ブックスの読解初級を書き言葉に書き直す。 書き言葉特有の語彙・文法 助詞と動詞の結びつき</p>
クラスの雰囲気	会社が日本語講座を設定した目的をよく理解しており、向学心も高いため、初回から活発なやり取りが展開できた。3 者 3 様に得意不得意があることをお互いに理解して、助け合いながらレッスンを進めている。一度レッスンで取り上げたことは次回以降必ず身につけて使えるようになっていることを、お互いが楽しみながら競うような前向きな姿勢が見られる。
授業での工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文は間違いの箇所を指摘し、自分で書き直し再提出させる。 ・助詞と動詞の結びつきに注目させ、授受関係・自他関係の使い分けがスムーズにいくような練習を繰り返す。 ・報告書は書き言葉で作成するので、書き言葉の全体像について説明し、動詞・語彙・文末等、段階を追って提示・練習していく。 ・授業の最初に自分が聞いてきたニュースについて発表してもらい、それを話題にしばらくフリートークで場を温めるようにした。

B 社（業種：IT・広告）	
対象社員	フィリピン出身エンジニア：来日約 2 年
授業期間・頻度	約 7 カ月 全 44 回 週 2 回 各 90 分
授業形態	企業派遣→オンライン
目標（企業様から求められていること）	<ul style="list-style-type: none"> ・ N5 レベルの語彙・会話表現を習得 ・ 社内の方と日常会話レベルのコミュニケーションができるようになること
授業内容	はじめよう日本語初級 1
クラスの雰囲気	<p>学習者はとても真面目で、疑問があれば、都度質問してくれるため、しっかりと理解した状態で次のステップに進むことができた。授業開始当初は日本語での発話が少なく、英語に頼っている部分もみられたが、語彙・文法知識が増えてくるにつれて、言いたいことを日本語で伝えることができるようになってきた。コース途中でオンライン授業へ変更になったが、学習者が積極的に課題に取り組んでくれたこともあり、通常授業と変わらない進度で進めることができた。</p>
授業での工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間は限られているため、漢字・語彙を覚えるというインプットは原則宿題とし、授業ではアウトプット重視とする。 ・ 既習語彙・文法を使用した文のディクテーションを行い、日本語に対する抵抗感をなくし、定着度・理解度を上げる。 ・ エンジニアという職業柄、日本語を使用する機会が少ないこともあり、授業内での日本語の発話機会を多く設ける。 ・ ディクテーション、各課テスト、漢字テストを定期的に行い、学習者の言語力の向上を数字で見えるようにした。

C 社（業種：半導体・電子部品）	
対象社員	<p>新入社員 1 名：中国出身、日本の大学院卒業、来日約 2 年</p> <p>入社 2 年目の社員 1 名：中国出身、中国での就労経験あり</p>
授業期間・頻度	約 5 カ月 全 32 回 週 2 回 各 60 分
授業形態	オンライン
目標（企業様から求められていること）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社内でのコミュニケーションが英語に頼ることなくできるようになること ・ 日常表現を身につけ、日常の様々な場面で使えるようになること
授業内容	はじめよう日本語会話 初中級から中級へ

クラスの雰囲気	<p>学習者2名ともとても意欲的で、向上心も高い。授業で学んだことをただ覚えるだけでなく、応用的に運用しようとする姿勢が見受けられるため、吸収したことを自分のものにしていこうという気がよく伝わってくる。</p> <p>両名の得手不得手は異なるが、そこを補い合いながら、それぞれの学びを深められている様子である。</p>
授業での工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習を徹底し、その上で質問があれば授業内でしてもらおう。疑問点を共有することで、さらに理解を深めていく。 ・セクション毎に文法テストを実施し、知識の定着を図る。 ・定期的に作文(スピーチ)を課題として与え、アウトプットの機会を増やす。 ・授業初回からオンライン、そして学習者同士も初対面ということもあったため、毎回授業の最初は簡単な近況報告(仕事、プライベートなんでも可)をしてもらう。

D社(業種:電気施設)	
対象社員	モンゴル高専出身新入社員2名:来日約半年
授業期間・頻度	約3か月 全25回 週2回各90分
授業形態	TIJの教室→オンライン→TIJの教室
目標(企業様から求められていること)	N4からN3レベル程度の会話ができ、社内の方とのコミュニケーションができるようになること
授業内容	はじめよう日本語2~初中級、日本語生中継を使った会話中心
クラスの雰囲気	学習者2名ともに会社でしっかり仕事ができるようになりたいという意識が高く、会社の方のサポートも受けることができ、安心して学習を進めていた様子。
授業での工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・持っている基本的日本語知識を運用できるようにすることを第一の目標と設定。 ・会社内での学習者の立場などを考慮し、その立場ですぐ使えるような場面設定練習を入れる。 ・社内の方とのコミュニケーションを必要とする課題を出す。 ・日本事情に目を向ける必要のある課題を出す